

年 末 市 長 訓 示

平成26年12月26日（金）午後1時
本庁舎8階大会議室A

平成26年の仕事納め式に当たり、今年一年の締めくくりとして、
職員の皆さんにお話しします。

まず、津市政をあずかる立場で、この1年間を振り返り、今年の
漢字を選んでみました。

それは、「躍」（やく）。活躍の「躍」です。

「躍」は、「高く跳ね上がる」「勢いよく動きまわる」を意味する
漢字です。

例えば、今年は、津市出身のスポーツ選手が世界で大活躍し、我々
を勇気付けてくれました。レスリングの吉田沙保里選手が世界大会
15連覇、アジア大会4連覇を達成しました。また、同じアジア大
会でのテニス競技男子シングルスで、西岡良仁選手が日本人選手と
して40年ぶりに金メダルを獲得しました。

また、美杉町を舞台とした映画「WOOD JOB！～神去なあな
あ日常～」の上映という絶好の機会を逃すことなく、全国規模での
シティプロモーションを展開し、映画の上映前、上映中と、タイミ

ングに合わせたPR企画を次々と打ち出すことで、津市、そして美杉町の名前が全国に躍りました。

いよいよ、来年は、合併後10年目の節目の年に入ります。その節目の年を、津市の更なる飛躍にも繋げていきたい、そんな想いもこめて、この漢字を選びました。

さて、今年一年を振り返りますと、今年の仕事始め式のなかで、市政を進めていく姿勢として、「アイデアを形にします」「スピーディーに答えを出します」「難しい問題を先送りしません」の3つを掲げました。この一年を通して得ることができた津市が将来に向かって着実に成長しているという実感は、私の申し上げた言葉をしっかりと受け止め、皆さんが一丸となって取り組んでいただいた結果だと思えます。

一つ目の「アイデアがどれだけ形になったか」ということですが、

「げいのう わんぱく」の整備がその一つです。これは、子育て中のお父さん、お母さんからいただいた「子どもが屋外で遊べる施設を充実してほしい」「子どもを通じて繋がりをもつことができる場を作してほしい」という思いを受け止めたもので、来年4月には、

子どもたちのにぎやかな声が聞けると思います。

千歳山の整備もそうです。「公園として散策できるようにしてほしい」「自然と触れ合う場にしてほしい」という市民の声に応えるべく、公園として一日でも早くご利用いただけるよう、基本計画の策定を進めていただいています。

また、以前からご要望のあった自治会掲示板の設置補助では、補助上限額を3万円として4月から新たな補助制度をスタートしましたが、「自治会の費用負担が大きく実態に合っていない」という声がありました。これを受け、直ちに補助要件の見直しを行い、12月17日から上限額を6万5千円に引き上げることにしました。一度決めたことをたった9ヶ月で変えてしまうことには、公務員としてはやりたくないと思ってしまいうところですが、市民の声に耳を傾けたことで、実態に合わせた形で即応することができました。

中心市街地の活性化に向けた取組では、オープンディスカッションでいただいた「地域情報誌を活用したPRを」との提言を受け、2月に津市の情報誌「津うWalker」を発刊しました。これは、自治体と株式会社KADOKAWAとの協力による全国初の試みでした。ご好評をいただき、当初の販売部数2万2,222部では足り

ず、増刷することができました。さらに、「多くの学生が江戸橋から南に来たことがない」との声を受け、学生さん自らによる津の情報誌「L o u p e（ルーペ）」を創刊しました。

3月には、国からバイオマス産業都市としての認定を受けました。これにより、民間企業が再生可能エネルギーによる発電事業などに参入しやすい状況になりました。これは、いわば市民や事業者のアイデアを実現に導く環境を先に整備したもので、これを機に、J F Eエンジニアリング株式会社が雲出鋼管町地内においてバイオマス発電事業を計画し、9月に同社とのバイオマス産業都市構築に関する包括連携協定を締結するということに繋がりました。

これらの取組は、皆さんが市民の想いやアイデアに対し、さまざまな機会を通じてしっかりと耳を傾け、その実現に向けて努力していただいたことが、実を結んだものです。

続いて、二つ目の「スピーディーに答えを出せたか」についてです。

4大プロジェクトでは、新斎場「いつくしみの杜」が、先陣を切って来年1月2日から供用を開始します。津市として初のP F I事業であり、苦労もあったかと思いますが、予定通り順調に進み、完

成の運びとなりました。

最終処分場とリサイクルセンターは、本体の建設工事に着手し、いよいよ形になってきました。

J R 名松線の復旧に関しては、市が実施する水路整備事業 26 箇所中、今年は 3 箇所が完成し、これまでに 14 箇所の整備を終えるとともに、復旧後の利活用に向け、三重テラスでの写真展やウォーキングを行いました。

そして「産業・スポーツセンター」ですが、12月25日、4回目の入札でようやく落札業者を決定することができました。職員の皆さんはよく頑張ってくれましたが、今後は、少しでも早くご利用いただけるよう、事業費に見合う良いものを作っていかなければなりません。そして、これから、まさにスピーディーに進めていただきたいと思います。

「(仮称) 道の駅津かわげ」の整備も進みました。平成 27 年度末の完成に向け、9 月には施設のレイアウト案を作成し、市民やご関心のある方からのご意見をお伺いし、透明性の高いやり方で実施設計に取り組みました。

久居駅周辺地区のまちづくりについても、ようやく、ポルタひさ

いの再生を達成しました。久居庁舎がポルタひさいに移転し、来年1月4日からポルタひさいふれあいセンターが、また、5日からは久居庁舎が業務を開始します。保健センターには子ども用トイレや授乳室を新たに整備するなど、市民が利用しやすい新しい庁舎として生まれ変わります。年末年始は引っ越し作業で大変だと思いますが、関係職員の皆さんよろしくお願いします。

小中学校の大規模改造についても、来年2月には、白塚小、神戸小、一身田中で工事が完了しますし、今年からは一志中でも工事に着手しました。また、トイレ快適化計画で取り組んできた学校トイレの洋式化は、今年度は、南立誠小、育生小、櫛形小、高茶屋小、川口小、白塚小、久居西中、一身田中で改修を行い、授業を受ける子どもたちに快適な環境をお届けすることができました。

櫛形幼稚園舎で進めていた児童発達支援センターは、いよいよ来年1月に工事が完了し、発達障がいに関する相談などに対して、専門的な対応を実施する体制が来年4月には整います。

老朽化した白山消防署一志分署の移転整備については、一志体育館西の市有地に移転整備することとし、来年度中の完成に向け、今年度は設計業務を行いました。

また、防災では、台風 11 号の襲来で、初めて大雨特別警報が発表されましたが、その危機的な事態に、すべての避難所 163 箇所を迅速に開設することができました。これは、皆さんがこれまで取り組んできた成果であると思います。一方で、避難が長期化した場合の職員の交代など、その配備体制が課題として浮き彫りになりました。しかし、これを受け、直ちに配備体制の見直しや避難所業務の再チェックを行い、災害対策本部をより実態に即した体制に改めることができました。また、避難所業務についても、即座に避難所要員を集めて業務の研修を行っていただいたので、今後の確に対応できる準備ができたと思います。

そのほか、三重短期大学の老朽化したクラブハウスの建替えや、久居中央スポーツ公園内プールのリニューアル工事が、間もなく完成をいたしますし、ボートレース津においては、競艇史上初めてゴールデンウィークに G I レース（つつじ賞）を開催するなど、年度当初に決めた取組をきちんと進めることができました。

これらは、事業の方向性が決まっていることに満足せず、きちんと手順をもって取り組んできたことが、成果として現れたものです。

最後に、「難しい問題を先送りにしなかったかどうか」ということ

です。

南が丘小学校と西が丘小学校では、10年以上も子どもたちが老朽化したプレハブ校舎で授業を受けるという状態が続いていましたが、新校舎の建設により現状から脱却することを決めることができました。

また、生活排水処理アクションプログラムにより、下水道計画区域外となった団地の共同汚水処理施設を津市へ帰属させることとしました。どう適正な形で帰属させるのかが難しい課題でしたが、ほぼ目途がつけました。

動き出さない救急車問題については、まだまだ道半ばですが、旧県営住宅跡地への新しい診療所の整備については、2月の全員協議会で市議会に対し整備の考え方をお示しし、来年1月を目途に基本設計に着手するなど、取組を進めることができました。

これらは、難しい問題に逃げることなく立ち向かい、努力を続けてきたことで実現に向け動き出しました。

そして今年は、合併後のひとつの目標であった職員2,500人体制が、2年前倒しで実現しました。限られた人員、予算のなかで、これだけの成果を得ることができたのは、皆さん自身が、質の高い

行政サービスを提供するために、効率的に業務を進め、そして、それぞれが持つ技能を存分に発揮して、全力で取り組んでいただいたからこそだと思います。

もうひとつ、今年は、津市、そして津市役所が大きな力、潜在力を秘めていることを、改めて感じるがありました。

それは、10月21日から22日にかけて、津市で開催された東海市長会議でのことです。津市で14年ぶりに開催されたこの会議は、大規模なコンベンションを開催する力が試される機会となりましたが、皆さんの心を込めたおもてなしにより、参加いただいた各市長から、「津市の奥深さを感じた」「こうしたコンベンションをさりとやってのける力のある都市ですね」とのお褒めの言葉をいただきました。

私も組織のトップとして誇りを感じています。皆さんも自信を持っていただきたいと思いますし、津市を、そして津市役所を皆さんの誇りとしていただきたいと思います。

今年もあとわずかになりました。一年間、頑張っていたご自身を労り、心身をゆっくりと休めてください。年末年始の休暇期

間中にもかかわらず職務に従事をしていただく職員の皆さんは、誠に
ご苦労さまですが、よろしくお願いいたします。

職員の皆さん、そして、ご家族にとって、来年がより良い年となります
ことをお祈りいたします。

一年間の業務、大変ご苦労さまでした。